

H29 常磐野教育 重点と取組

学校教育目標の実現に向けて ～はじめに～

- ・ まず子どものかけがえのない存在を認め、今置かれている位置、今ある力から出発する。
- ・ 今できることを認めて安心感につなげ、ほんの少しの創意・工夫・努力を見逃さずほめて自信と意欲につなげる。
- ・ 学ぶ楽しさや学ぶことの意味・価値を感じ取ることが、夢かなえることへの大きな力となる。
- ・ 仲間・教職員・家族・関わるすべての人の存在の大切さを実感することが、夢かなえることへの大きな支えとなる。

【重点】

- 1 児童の学力向上
- 2 校内研究の推進
- 3 攻めの生徒指導の実践
- 4 人権教育の充実
- 5 豊かな心を育てる協働活動の推進

◎取組

1 児童の学力向上

①日常の授業の充実、焦点化児童（個）に届く授業実践

- ・「わかる喜び」と「学ぶ楽しさ」を実感できるように、児童理解に基づく思考の流れを考えた授業展開や個に応じた支援
- ・主体性、学習意欲、めあて（学習課題）と振り返り（まとめ）の徹底

- ・効果のある指導形態の工夫

3～6年でT・T, 分割授業, 交換授業等の実施

- ・学年会（毎週火曜日）の実施による共同の教材研究や指導法の伝達

- ・TYP（若手研修）～授業研究を中心に総合的な教師力の育成

- ・全教員最低年2回（前・後期1回）の公開授業, 入り込み指導

②学習集団づくり～学びの約束やルールの徹底

③帯時間（スキルタイム）, がんばり勉強の活用～基礎・基本の徹底

④読書指導の推進（朝読書の徹底, 読書ノートの活用, 図書室の活用）

⑤家庭学習の充実～「予定表の活用」めあてをもった生活と振り返り,

やりきらせる指導と自学自習の奨励, 保護者との連携

⑥指導の評価の一体化～補助簿の活用

⑦各種学力調査での結果向上を目指す

2 校内研究の推進

～外国語（英語）活動の研究を通して

①全学年での外国語（英語）活動の推進

・英語に親しみ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成。

・研究部中心に, 年間計画・カリキュラムの作成と実践

・5・6年生で「書く」活動が入ってくる。指導法についての共通理解

を図る。ALT任せにしない。

・イングリッシュシャワーと「英語の日」の活動の充実

・水曜日の朝読書の時間は, 英語に触れ親しむ時間にする（健康観察等）

②理科教育研究の財産を生かして

- ・環境の整備（掲示板の活用、自然だよりの発行、理科コーナー）
- ・わくわくサイエンス（児童朝会でのミニ実験～興味・関心を高める）
- ・夏休み自由研究の取組～探究心、表現力の育成
- ・ネイチャーランドの整備と活用
- ・土曜学習「サイエンススクール」

③ 言語活動の充実・推進

- ・「話す力」の向上
 - 朝の会でのスピーチ活動、話し合いのルールの徹底
- ・共に学び合う力の育成～友達の考えを認め、つながりのある発言の指導⇒相手を思いやる心や態度を育てる
- ・「書く力」の向上～ノート指導の充実
- ・他教科との連動～総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しと実践。
 - 調べたことをポスターーションやプレゼンテーション等で発表・発信する（掲示ボードの活用）。

3 攻めの生徒指導の実践

① 児童理解の徹底と見逃しのない観察

- ・「なぜこの子は～なことをするのか、その背景になにがあるのか」
 - 家庭環境、育ち方⇒意図した家庭訪問、保護者との信頼関係
- ・他の児童との人間関係や所属する集団とのかかわりをみる。そのため
 - にアンテナをはって観察したり、一緒に遊んだりする。
- ・日記や予定表、クラスマネジメントシート・いじめ調査の活用。
- ・S S Wを交えたケース会議の推進～アセスメントシートの活用、方向

性の確認と教職員の意識・行動の一元化

②心の通った指導

- ・子どもへの愛情。褒める、認める。毅然とその行動を叱る。（温かさと厳しさを持ち合わせる）
 - ・子どもの思いを「共感的に聞く」ことを大切にする。
 - ・自己肯定感と自己有用感（役割を与え、やる気を育てる）
- ～集団活動（学校行事、全員遊び、係活動等）や授業の中で、焦点化した児童が活躍できるような場を意図的に仕組む、学級集団の意識を高める（達成感や成就感をもたせる）

③手遅れのない対応

- ・組織的な対応、報告・連絡・相談の徹底
- ・危機管理の意識を常に持つ
- ・被害を最小限に食い止める→再発防止→未然防止

④授業を通した生徒指導（生徒指導が機能する授業）の実践

- ・焦点化した児童が生き生きと活動する授業、そのためにも児童理解に徹することが重要。

→その個のよさや可能性、得意なこと、育っていない力は何か。

どんな学習体験や経験があるのか、どんな考え方をするのか。

→躊躇を想定した支援。学習意欲を持たせる学習展開や板書の工夫。

- ・学習集団づくり

- ・自己評価（振り返り）～自分を見つめ、成長を自覚できるようにする。

⑤相手を大切にする言葉づかい、あいさつ、きまりを守ろうとする意識の

高揚～教職員が共通理解して指導する。

男女関係なく「さん」づけで呼ぶ。教職員からまず発信。

⑥学校いじめ防止基本方針の改訂

⑦非行防止教室、薬物乱用防止教室、携帯スマホ教室の実施

4 人権教育の充実

①児童の人権感覚、人権意識の向上。いじめをしない、許さない、やさしい子の育成、児童会の活性化

②教職員研修、授業公開と保護者啓発の連動

- ・教職員全員で人権影絵劇に取り組む

③LD 等支援の必要な子どもの実態把握と「個別の指導計画」「個に応じた指導計画」に基づく総合育成支援教育の推進

5 豊かな心を育てる協働活動の推進

①道徳教育の充実

- ・道徳教育全体計画を作成し、「道徳」を毎週確実に行い、積み上げる。
- ・各時間のねらいを明確にして、指導法を工夫し、授業のふり返りを確実にする。⇒評価につながっていく

②たてわり活動の実施

- ・たてわり班を作成し、班の中でのたてわり遊びや読み聞かせの実施。
- ・高学年の児童にリーダー性をもたせ、好ましい人間関係づくりを進める。

③よさや可能性を高める部活動の取組

- ・心を耕す文化部の活動、芸術部・合唱部
- ・スポーツの楽しさや喜びを味わい、努力や協力の大切さを学ぶ運動部の

活動

- ・大文字駅伝に向けての取組
- ・全員体制が基本。

④地域との協力体制の強化と充実

- ・学校運営協議会の充実
- ・地域の方から学ぶ～ゲストティーチャー、地域行事への参加

⑤学校評価を生かした運営の推進

- ・PDCA サイクルの実践
- ・児童・保護者・教職員の三者評価に基づく取組の検証と実践化
～内容項目の検討
- ・ホームページ更新によるアクセス数の増加促進、教育活動の情報発信